

学校推薦型選抜（小論文） 2024 年度過去問題

学校推薦型選抜〔総合学科専門学科推薦〕

問. 下記の文章は、「量が質に転化する…」というタイトルのコラム記事です。この記事のように、コロナ禍の教訓を踏まえると、今後の日本のインバウンド観光はどうあるべきなのでしょう。あなたの考えを 800 字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。

量が質に転化する。学生の頃、受験や部活でよく聞いた言葉だ。量をこなせば質も高まるという趣旨だが、経験から言えば、がむしゃらに突き進んでも手法がまずければ効果は低い▲観光地に人出が戻ってきた。今年のインバウンド需要はコロナ禍の前を上回るとの予測もある。とはいえ感染は収束しておらず、油断は禁物。オーバーツーリズムのような弊害の再来も避けたい▲政府が観光政策の「量から質」への転換を目指すという。訪日客数のような数値目標の達成に固執するのではなく、観光地が住みやすくなる施策にシフトするなら賛成だ。不安定な雇用を改善し、混雑や環境破壊を招かない観光のあり方を示せるか、知恵の絞りどころだ▲集客は代理店頼み。繁閑差や価格競争が激しく利益が出ない。そうした体質の見直しを迫られていた産業だが、インバウンドの追い風が先送りを許してきた。需要が一気に消滅したコロナ禍は、課題に向き合う契機にもなったはずだ▲観光政策に詳しい宮崎俊哉・三菱総研主席研究員は「再生の芽も見えてきた」と話す。コロナ禍でも、近隣からの来訪を促して収益を維持するといった事例が出てきた。訪日客は回復しているが、政府の支援には頼れなくなる。事業者の新たな取り組みに期待したい▲欧州連合（E U）が昨年公表した観光政策も数値目標を設けず、環境への配慮や地場産業の育成に重点を置いた。住民や働き手が安心して暮らせない観光地では、おもてなしの心も曇ってしまう。

（出典：「余録：量が質に転化する…」『毎日新聞』2023 年 5 月 7 日朝刊、1 面）